

2025

初夏号

No.99

ほ な み

穂 濤

For WASEDA University Old Boys & Girls

発行所

早稲田大学藤沢稲門会

事務局

FAX 050-3730-7252

E-mail:w.fujisawa@
crocus.ocn.ne.jp

発行人 笹 井 修 一

穂 濤 編 集 委 員 会

藤 稲 フォトクラブ

4月のはじめ第17回藤稲フォトクラブ写真展が始まった。前から聞いて知ってはいたが、実際に静かな展示室に足を踏み入れたとき、それはもう僕の中では「始まっていたもの」として自分を迎えて入れていた。展示室には、選び抜かれた写真たちが並んでいる。今回は校友の投稿作品もあるということだった。写真で何かを切り取るということは、そこに存在しないものを同時に選ぶということもある。

今回の展示では「光」をテーマにした作品が展示されていた。それぞれの会員や投稿者が光をどう捉え、どう語ろうとしたのかが見える。たとえば、一枚の夕焼けの写真。柔らかなオレンジと藍色のグラデーションが、水面に映りこんでいる。色彩の美しさに惹かれて、僕はしばらくその前に立ち尽くしていた。隣で写真を見ていた女性が、ぽつりと「これは色の記憶ね」と言った。僕は頷いた。そう、光とは色の記憶だ。そして写真はその記憶を留めるための装置なのだ。

別の壁には、ステンドグラスに光射す建物を切り取った写真が展示されていた。そこに写っているのは現実の光景か、それとも誰かの記憶の中の光景なのか。その境

「僕」は確かに「光」を感じた！

界が曖昧になるような作品だった。

自由作品も、モチーフはやはり「光」だ。光とは何か。それは単なる電磁波ではなく、僕たちの目の奥に入り込み、心の中で何かを呼び覚ますもののなのだろう。「色彩の美しさに心を奪われるような」「まるで別の世界を旅しているようだ」といった言葉が耳に入ってきた。それは単に写真の技術を褒めるのではなく、その写真が見る人の内側に何かを響かせた証拠だ。

会場を出ると、外の光がいつもより少し違って見えた。夕暮れが始まりかけた空の色、アスファルトの上に伸びる長い影。どこにももある光景なのに、何か特別なものに感じられる。写真展の余韻は、そうしてしばらくの間、僕の視界の片隅に残り続けるのだった。

卯辰 昇（昭和53商学）



写真展出展の皆様

藤 稲 テニス同好会

4月26日（土）、六会日大前駅近くのファーストシティテニススクラブにて、藤稲テニス同好会の春季大会が開催されました。当日は、昭和36年卒から平成11年卒まで、40代から80代の幅広い世代のメンバー13名が参加。晴天の下、心地よい汗を流しました。

今大会の頂点に輝いたのは、青木さん（昭和53商学）。「正確なサーブとボレー」を武器に、安定し



春季大会参加者一同

た試合運びで全勝優勝を飾りました。同じく全勝ながら惜しくも準優勝となったのは、須田さん（平成元商学）。「多彩なスライスを駆使したテクニカルなプレーは、メンバーを魅了しました。そして3位には、「重く粘り強いストローク」が光った鈴木さん（昭和55文学）が続きました。全勝者が2名というハイレベルな戦いとなりましたが、同好会ならではの慣例により、卒業年度が上位の青木さんが優勝となりました。

メンバー全員が怪我なく、充実した時間を過ごし、秋の大会に向けて新たな気持ちで臨む良い機会となりました。

藤稲テニス同好会では、第2・第4土曜日に練習会を開催しており、経験・性別を問わず新たな仲間を歓迎しています。テニスを通じて校友の輪を広げませんか？ご興味のある方は、齋藤までご連絡ください。

mail: noreplyjohn@kym.biglobe.jp

齋藤昭弘（平成元商学）

世代を超えた熱戦！
テニススクラブに校友集う

2024年神奈川県支部大会

11月2日（土）相模原・大和町稲門会が主管となり開催された。県下14稲門会約240名が参加。

藤沢からは18名が参加。今回はレインプラントホテル東京町田で開催。背景には長いコロナ禍もあり近隣

穂 濤

で開催可能な大きな施設が無くなつた模様。

大会旗の入場後相模原稲門会志茂武会長が挨拶。東京の施設での開催となつたが、明治に東京に移管される前には当地は神奈川県、駅からホテルまでの徒歩道路の一部は相模原市との話があった。

来賓及び県下稲門会会長の紹介の後、東島正樹神奈川県支部長の挨拶。続き早稲田大学本間敬之常任理事から「早稲田大学の研究教育―今とこれから―」と題した講演があった。

研究の早稲田、教育の早稲田、貢献の早稲田を理念に定め、創立150周年（2032年）に向け、例えばオンデマンドで学生が中広く授業選択が出来る等改革を進めている。そして2040年には日本で2050年にはアジアで一番学びたい大学としたいと説明があった。その後相模原稲門会会長・宮崎頭大和稲門会長から大学へ寄付金の贈呈、松尾亜弓校友会常任

幹事の挨拶が続いた。

懇親会場に移動し、まず早稲田大学グリークラブによる校歌、紺碧の空、他8曲の歌が披露され、皆手拍子を取る等盛り上った。大学からの来賓の挨拶、古谷田力大和市長の乾杯の発声後懇親の時間となった。年1度の機会であり、他支部メンバーとの交流が各テーブルで行われた。

最後に応援部のリーダー、チアガールの演技、次回主管の鎌倉稲門会兵頭芳郎会長への大会旗継承、そして皆で校歌を斉唱し、会は終了した。舛岡 健（昭和49法学）



大会旗継承

第26回SUC親睦交流会

本年度の当地区16大学の親睦交流会である湘南ユニバーシティクラブ（SUC）は明治大学の幹事で10月19日（土）に市民会館で第26回会合が開催され、2校欠席の14校から約100名が、当会からも2年ぶりに参加をした。

第1部は、元藤沢市藤澤浮世絵

館学芸員の細井守氏（明治大学校友）から「地域を知る―浮世絵に見る湘南―」の演題で浮世絵に描かれた湘南の名所20選を基に、当時浮世絵とは庶民にとってどんな存在かの講演があった。

第2部は各大学の同窓会比較を幹事校の明治大学が分析し、その

概要説明を受けたあと、前年度幹事の関東学院大学の乾杯が始まり、寺谷明治大学藤沢地域支部長率いるバンド演奏へと興が乗っていった。

また来賓挨拶は当会の会員でもある鈴木恒夫藤沢市長がされたのち次年度の幹事校である駒澤大学へ引き継がれ、盛会の中お開きとなった。

神藤利路（昭和51商学）

お知らせ

一昨年に募集した年会費口座自動引落しにご登録頂きました65名の年会員の方々からは昨年に続き本年も2月20日に自動引落しをさせて頂きました。ご協力有難うございました。

さて、この度、第2回目の口座引落しの募集を行いたいと思います。ご希望される会員の皆様は、藤沢稲門会のHPの「各種お問い合わせ」からの申込み、もしくは会計担当の田中

☎090-1830617565

までご連絡ください。早急に口座引落しの申込み申請書類を送付いたします。

書類手続きの処理時間にもよりますが、今回の引落しは8月20日に行いたいと思いますので、できれば6月末までにご連絡くださると有難いです。

行事予定

■2025稲門祭

「ありがとう早稲田

」散じて集まる稲門の絆」

日時・10月19日⑩

■第23回作品展

本年12月までの会場抽選で落選中

編集後記

2025年春の最近の六大学野球では早稲田大学が慶應大学を破って勝ち点を獲得した。そして早稲田と首位だった明治大学と優勝決定戦を勝ち抜き、昨年の秋に続いて見事優勝。

女子ゴルフ界では早稲田出身の稲垣那奈子プロがリゾートトラストレディスで見事優勝。

そのような事が沢山あります。大の里、大谷、そして長嶋。

（高野尚志記）

編集委員長 青木 康

編集委員 高野尚志・中野正一

安田佳裕・山口金雄

山下扶佐子

〔本年の穂濤発行 9月・12月〕